

## CONTENTS

- ひなた箱完成 ..... 1
- 第2期モデル園 総括 ..... 2
- 宮崎工業高校インテリア科での木育教室 ..... 3
- みやざき木育マイスターの活動のご紹介 ..... 4

## ひなた箱完成

モデル園の2園が、この1年を通しひなた箱作りに取り組み完成しました。

日 時: 令和8年2月25日(水)  
①10:00~12:00 ②13:00~15:00  
場 所: ①ひかりの森こども園(三股町)  
②あやめ原こども園(都城市)  
指 導: 一般社団法人KASANE  
代表理事 松井 勅尚 氏、理事 吉田 理恵 氏  
参加人数: ①5名(園長、保育者3名、事務局2名)  
②14名(あやめ原こども園 園長、保育者9名、  
四季の森こども園 園長、保育者1名、事務局2名)

### ①ひかりの森こども園

ひかりの森こども園のひなた箱は殆どが完成しており、先生方に完成したひなた箱を見て頂きました。

#### ▶保育者の感想

「和紙作り体験を行った時に、これは木槌と言って角で叩いたら繊維が壊れるよ!と話をすると、ゲンノウの平らと丸のを確かめる園児がいた。また、疲れたと言いつつも姿勢良く、様になっている姿を見て、(取組んでいる木育プログラムが)こんな風に繋がるんだと改めて感じた。」

「やり方が分からないという園児には、園児同士でこれをこうすると綺麗になるという話も出ていた。」

「ひなた箱作りで、園児同士の繋がりも深まったように思う。」

#### ▶先生方より

「ひなた箱作りはゲンノウを使う機会を意図的に増やしています。繰り返すことで“型”を覚えるので、良い教材だったと思います。」「ひなた箱作りのノコギリでのダボ切りは、年中児の教材「チョロ船作り」で初めてノコギリ体験をし、その後日常保育の中で切ることの喜びを感じることができると、力の加減も出来るようになります。今後の継続のためには日常で当たり前前に使えることが大切です。」



ひかりの森こども園



あやめ原こども園

### ②あやめ原こども園

あやめ原こども園のひなた箱も殆どが完成していました。

#### ▶保育者の感想

「モノを雑に扱ってしまっている園児がおり、気になっているが、今年度、ひなた箱と一緒に作ることで、モノの大切さを分かってきている園児もいた。経験を積むことで、そういう気持ちも育ってきているので、全員が感じられるようになると良いと思う。」

「出来ることが沢山増えたなど感じた。年長児には、釘が曲がったら釘を立て直したりなど、園児だけで作り上げており、子ども達は成長していると感じた。」

#### ▶先生方より

「“みやざき木育”の6つの力の1つである「地域とつながる力(対話力)」に対し、どのように地域と繋がり、協力してもらうかを、身の丈で取り組み、その中でこの先の方向性まで考えて頂けたことに感謝します。」

「“集中”と“がむしゃら”は違います。この園の理念として「立腰と瞑想」がありますが、この木育プログラムは、あやめ原こども園の理念を体現でき子どもたちが集中力を育むことができることを願います。」



# 第2期モデル園 総括

モデル園として3年間活動してきたこれまでの振り返りを、両園で行いました。

日時: 令和8年2月25日(水) ①10:00~12:00 ②13:00~15:00  
場所: ①ひかりの森こども園(三股町) ②あやめ原こども園(都城市)  
指導: 一般社団法人KASANE 代表理事 松井 勅尚 氏、理事 吉田 理恵 氏  
参加人数: ①5名(園長、保育者3名、事務局2名)  
②14名(あやめ原こども園 園長、保育者9名、四季の森こども園 園長、保育者1名、事務局2名)



## ①ひかりの森こども園



### ▶ 3年間を振り返り保育者の感想

「道具を使うことの怖さも実感した。園児が自由に使えるまでには小さい頃からの色んな道具を経験することが大事だと思った。」「来年からは、園として上手く続けていき、主体なる。保護者も喜んでいるので、これからは保護者にどう伝えるのかも課題だと思う。」「小さい頃から目標に向かって取り組むことの大切さを知った。また、道具を使うにも遊びなどを通していろんな経験を基にしないと道具を使える身体になっていないし、次の意欲に繋がらない事に気づいた。普段の保育の振り返りにもなったので、こちらが色んな経験を積んで、楽しさを提供できるようにしたい。」「3歳児の時は、じっとしてなかった園児が、根気強く作っているのを見て、園児が育ったと感じ凄くありがたかった。」

### ▶ 地域との繋がりや課題について

「高齢者との繋がりもあるので、もう少し触れ合える環境を作るべきだったのかなと思う。」「園のスタイルとして、その子がやりたいという時にやるので外部への声かけの調整が難しかった。」「この町にとってのきっかけ作りになると思いモデル園として応募した。このプログラムを土台にして、樹と木の繋がりを認識することや、森林業の方が携わることが重要だと思った。また、地域や世間にアンテナを張って繋がれると良い。」

「保育業界に木育プログラムが魅力的に広がるような工夫が必要なのかなと思う。」「園の問題であるが、保育者不足の中でも色んな経験を作ることが大事である。目を向けることが出来ない余裕のない園もあるように思う。そういう根本的なところから変わっていかないと普及も難しいのではないかなと思う。」

### ▶ 先生方より

「第2期モデル園は、地域との繋がりをどうやって築いていくかが目的であり、その手法として“地域サポーター”がありました。この取組を広げるとは、園の応援団が増えると同時に、“みやざき木育”が大人の皆さんにも広がっていくことを意味します。」

「道具は身体の延長、そして文化です。道具とは、人間の試行錯誤の蓄積からできたものです。だからこそ道具使いは日本文化に伝わりますが、“型”の伝承ではないかと思えます。子どもの主体性が重視されていますが、道具に関しては大人が誇りを持って伝え、その先にはじめて自由な表現があっても良いと思えます。」

## ②あやめ原こども園



### ▶ 3年間を振り返り保育者の感想

「紙やすりから段階を踏み、道具の使い方を体験し、園児も気づくことが多かったと思う。園児がやりたいと思った時、作りたいと思った時に実施出来るような環境づくりも大切だと思った。」「姿勢を改めて考えさせられた。」「木育は、いろんな先生に伝えながら続けている。その都度、課題もあるが、園児が木に触れて大事にすることで保護者にも木育に関心をもってきている。長く使っていけるものに心が根付いてきたのではないかなと感じている。」「忘れていくので、どこかで振り返るといのは大事ななと思った。積み重ねていくと子ども達も落ち着くし、工夫する力やいろんなことで日々力がついていると思直した。」「保育者もモノを作る大切さを学べる機会になり良かった。」

### ▶ 地域との繋がりや課題について

「地域の高齢者を毎月の誕生会に招待して一緒に過ごしてるので、園児と高齢者の距離は近く、会話を楽しみながら作ることが出来たと思う。」「地域サポーターと保護者が、園児を真ん中において、木育を通し良い交流になっていた。」「地域の方に良い取り組みだということで、地域の広報に掲載され広がっていったのではないかなと思う。」「地域サポーターで、手順を教えたにも関わらず我流でやる方もおりそこは悩んだところだった。」「道具の使い方が複雑になれば、園児と活動する前に意図や道具について詳しく説明した方が良いと思った。」「理想では、地域の方にはラフに来てもらいたかったが、園側が構え、地域サポーターへの気遣いも大変だった。」「私たちは1つずつ丁寧に教えて頂いたが、新しい職員にどう伝えるのかが課題になると思う。」

### ▶ 先生方より

「1年に1回だけのイベントとして取り組むと、意識が定着しません。日常保育の中で繰り返し繰り返し声をかけることが大切です。」

「木工のやり方には「これが正解」というものはありません。ですが、この取組みでは、姿勢を意識することも大切にしてるので、サポーターの皆さんの知恵や伝えたい思いを尊重しつつ、手本となる姿を見せていただくよう伝えていきたいですね。」

県では、今回の意見を反映しながら木育プログラムの普及に取組んでいきたいと考えています。

# 宮崎工業高校インテリア科での木育教室

## ① 林業・木材産業見学ツアー

日時: 令和7年10月14日(火) 8:30~16:30  
視察先: 宮崎県森林組合連合会都城林産物流センター(都城市)、  
宮崎県木材利用技術センター(都城市)、都城木材(株) 三股工場(三股町)、  
ランバー宮崎協同組合(宮崎市高岡町)  
参加人数: 39名(生徒33名、引率3名、事務局3名)

木育活動の一環として、宮崎工業高校インテリア科2年生を対象に、地域の循環資源である木材をテーマに伐採現場・木材加工企業等の現場見学会を行いました。



### 宮崎県森林組合連合会都城林産物流通センター

説明: 所長 長友 孝博 氏

宮崎県森林組合連合会は、県内に9つの原木市場(流通センター)を展開し、スギ丸太の原木を中心とした委託販売に携わっています。林家や素材生産事業者など、原木を預かり、製材所に販売するまでの仕事を担っています。

都城林産物流通センターでは月に2回、定例市を開催しており、売り手と買い手の間に立ち、適正な価格で販売しています。  
今回は初めて視察先として原木市場を取り入れました。



### 都城木材(株)

説明: 取締役 五十嵐 友梨子 氏  
営業課長 田平 浩史 氏

都城木材(株)は、製材から乾燥・加工、チップまで木材にまつわる一連の生産を行っており、ヒノキ、スギの構造材を中心とした受注生産型工場として現在に至ります。

今回も昨年と同様に三股工場に伺い、会社の概要を聞いた後、工場見学を行いました。製材の説明では、牛の肉の部位に例えられ、木も用途に分けて無駄なく使っていること等が説明されました。工場見学では、原木から製材、乾燥、製品等を見学しました。

### 宮崎県木材利用技術センター

説明: 企画管理課 課長 宮浦 拓生 氏  
会計年度任用職員 平川 恵利子 氏

宮崎県木材利用技術センターは森林資源を有効に活用するため、木材利用に関する試験研究及び研修並びに木材利用技術の指導、相談及び普及を目的とした研究施設です。

今回は、材料実験棟と構造実験等をメインに木材の長期間にわたる変化を調べる長期性能試験の状況や木造建築物及び土木構造物の実大サイズの試験体について、強度評価実験を行うための試験機器等を見学しました。



### ランバー宮崎協同組合

説明: 韓国担当・通訳 金 恵栄 氏  
生産事業部 管理課長 石田 有賀里 氏

ランバー宮崎協同組合では、木造建築物に使われる木質部材をCAD-CAMを使用したプレカット加工や、木材に薬剤を注入することで木材を腐りにくく(防腐)、シロアリや害虫の食害を受けないよう(防蟻)にする木材保存処理を行っています。

会社概要を聞いた後は工場見学を行いました。さらに、今回は模型を使い、在来軸組工法を組み立てる体験をしました。

## ② 生徒向け事後学習会の実施

日時: 令和7年11月18日(火) 13:25~15:15  
場所: 宮崎工業高校 インテリア科実習室  
参加人数: 44名(生徒33名、企業代表3名、教員5名、事務局3名)  
企業代表: 県森連都城林産物流通センター 所長 長友 孝博 氏  
都城木材(株) 取締役 五十嵐 友梨子 氏  
ランバー宮崎協同組合 生産事業部 管理課長 石田 夕賀里 氏

10月に見学ツアーを行った後、11月に企業の方を学校に招いて、学びの発表と意見交換会を実施しました。



生徒は6班に分かれ、それぞれ見学した企業について調べ上げ、学んだことで知ったことや感想を、班によってはクイズを交えながら発表しました。また、まとめる際出た疑問を企業側に質問し答えてもらいました。

生徒からは「将来、このような仕事に就く人が増えて、林業の維持又は健全な発展をしていくために、今回のように間近で体験出来る機会を作り、この職業に興味関心を持つ人が増えていければ良いと感じた。」「宮崎がどのくらい杉のことを大切にしてきたのかを知れた。」「お店で売られている木材でも沢山の企業や団体が携わって出来ているものだということが学べた。」などの感想がありました。

また、生徒からやりがいについての質問には、企業側から「一生に一度の大きな買い物に立ち会えることと、おじいちゃんやおばあちゃんが大事に育てた木を買ってくれることに立ち会えることに関わることが面白い。」「こうやって見学に来て頂き、説明をしてそれを皆さんに知って頂くのが一番のやりがいなのかと思う。」という答えや、発表後には「機械のこと等を細かく調べて色々まとめていただいているので、(発表資料を)持って帰り職員に見せようと思った。」という声もありました。



県森連都城林産物流通センター 長友 孝博 氏

ランバー宮崎協同組合 石田 夕賀里 氏

都城木材(株) 五十嵐 友梨子 氏

## なでしこ保育園 (高鍋町)

日 時: 令和7年11月6日(木)  
9:10~10:30  
講 師: みやざき木育マスター  
緒方 由紀子 氏  
参加人数: 42名(園児34名、  
地域サポーター2名、保育者6名)



なでしこ保育園  
本崎園長先生

普段、園のメンテナンスを行っている地域の方がサポートに入り、年中児、年長児を対象に「森の雫」づくりを行いました。導入として、みやざき木育マスターの緒方さんが、絵本と紙芝居を読み、材料である「木」と「森」の働きについて伝えました。

実施後の振り返りでは、園長先生より「思っていた以上に作業に集中していることにビックリした」「以前、園でスギの植栽を行ったことがあるので、木育プログラムを実施した後に植栽の体験をすれば、より深まるのではないかと感じた」との声がありました。また、地域サポーターからは「普段子どもと触れる機会がないので楽しかった」との声がありました。



絵本の読み聞かせ



地域サポーター



「森の雫」づくり



## みやざき木育マスターの 活動のご紹介

みやざき木育マスターが県内の保育園で、木育プログラム「森の雫」を実践しました。

## 都農保育園 (都農町)

日 時: 令和8年1月17日(土) 9:10~10:50  
講 師: みやざき木育マスター 緒方 由紀子 氏  
参加人数: 80名(園児35名、地域サポーター38名、  
保育者7名)



都農保育園  
町田園長先生



地域サポーター養成講座



「森の雫」づくり



保護者参観として行われた「森の雫」づくり。先に保護者を対象とした地域サポーター養成講座では、「森は海の恋人」活動の知られる、畠山重篤さんの絵本『山に木を植えました』を読み、プログラムの目的である「森」と「海」「水」の繋がりを伝えました。

園児との「森の雫」づくりでは、保護者が指導者となり園児をサポートしました。

先生方との振り返りでは、「保護者が園児に見本を見せ指導することで、身近な大人が尊敬できる、憧れの姿となる良い機会だった」「モノづくりを行うことで普段とは違う姿を見られたり、親同士の交流にもなったようだ」との声がありました。

### 木育ネットワーク部会とは

豊かな森林を次世代に引き継いでいくには、県民一人ひとりが、木材の良さや利用することの意義について理解と認識を深め、県民全体で県産材の地産地消に取り組むことが重要であることから、みやざき木づかい県民会議を平成25年2月に設置し、木づかい運動を進めてきました。

木づかい運動を進めるうえでは、子どもたちを中心に木に触れ親しむ機会や、森林、林業、木材、資源循環について分かりやすく伝える機会を創出する木育活動を進めることが非常に大切であることから、木育に積極的に取り組む企業・団体・行政などの参画による木育ネットワーク部会を設置しました。

■発行 宮崎県森林林業協会 ■編集 miyamokku

■事務局 みやざき木づかい県民会議 木育ネットワーク部会(宮崎県森林林業協会・宮崎県山村・木材振興課みやざきスギ活用推進室)

■住所 〒880-0802 宮崎市別府町3番1号 宮崎日赤会館2F ■TEL 0985-27-7682 ■FAX 0985-25-2398



木に触れて、  
木と遊び、  
木を学ぶ